

第一表 被 験 者

グループ	4才児数	3才児数	被験者数	計
A		16	11	15
		8	4	
B	49	3	3	13
	28	6	4	
	18	6	4	
	17	5	2	

Aグループ 3才児のみで編成されたクラスの幼児
 Bグループ 4才児の中に3名から6名混合編成されているクラスの幼児

向の特に強いものとして、規律、言語における発表力、製作における独立心などが挙げられる。Aグループは生き生きとして流動的なのに反し、Bグループは自己主張が少なく、無気力、特に身体的、知

第二表 AB両グループの比較

項目	遊びの構成度	活 発 度	積 極 度	適 応 度 (教師の評定)
なにもしないでぶらぶら	△	*	積極的	*
傍観あそび				
独りあそび				
並行あそび				
連合あそび				
組織協同あそび				
1. 話しかける	積極的	*	積極的	*
2. 指示命令をする				
3. 他人に身体的苦痛を与える				
4. 他人を精神的に不愉快にする				
5. 他人の持物を攻撃する				
6. 指示命令された通り行動する				
7. 模倣する				
8. 援助加勢を求める				
9. 指示命令を求める				
10. 他人から身体的苦痛を受ける				
11. 他人から精神的に不愉快を受ける				
12. 他人から持物を攻撃される				
13. 身体的に接近または接触				
14. 援助を待つ				
15. あやまる				
16. 泣く				
1. 孤立性	*	*	適応度	*
2. 言語発展				
3. 対人的積極性				
4. 攻撃性				
5. 人 気				
6. 独立心、依頼心				
7. 注意をひくこと				
8. 周囲に対する積極的関心				
9. 元 気				
10. 協力性				
11. 規 律				
12. 意志の発展				
13. 物を分けること				
14. 気分の変定性				
15. 幸福感				
16. 落着き				
17. く せ				

* 50%以下の有意水準を持って差のあるもの。
 △統計的に有意差は認められないがAグループの方が優れている。

組編成による三才児の

保育効果の相違

お茶の水女子大学 津 守 真
 笠井佐智子

〔方法〕 行動観察、教師の評定、担任教師との面接によりおこなう。
 〔結果〕 第二、三表の通り。なお、Aグループの方が優れている傾向。

第三表 日常の保育活動にみられるAB両グループの比較

項目	A	B	
製 作	考えようとしてせほり出したり先生や友達に依頼する	3	8
	わからない時は先生にきいたり友達のをみたりしていわれた事をする	4	2
	聞きにこず自分で手本を見たり考えたりして仕上げる 創意工夫する	8	3
	先生からいわれても発表しようとしな	1	6
言 語	先生からいわれれば出てきて話すのが消極的である	7	3
	恥かしがらずに経験や思ったことをなんでも話す	7	5
	先生や友達の話を落着いてきかない	3	3
	先生の話はふざげないできく	5	4
音楽リズム	先生や友達の話にも上手にきく	7	5
	興味なきそうに友達のするのを見ている	0	1
	参加しようとしな	0	1
	群みではないが友達の後からついていく程度リズムにのらないこともある	7	8
	快活に楽しさを味わって参加している工夫表現もする	8	4

能的に発達した幼児では種々の不適応行動が現れている。この傾向を軽減するために、(1)能力に応じた指導の機会をはっきりつかむこと。(2)混合クラスに三才児専用の遊具を用意するなど遊具についての十分な配慮が考えられる。